

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり竹田		
所在地	竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	令和3年2月28日	評価結果市町村受理日	令和3年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「馴染みのある土地で穏やかに暮らしたい」このような利用者の思いを尊重し、一人ひとりが自分らしさを失うことなく安心して生活できるよう、日々の関わりの中で利用者をサポートしながら共に笑ったり、共に喜んだり、共に悩んだり、信頼関係を築きながら家族のように過ごせる時間を大切にしています。また、城下町竹田ならではの地域行事への参加、敬老会への近隣高齢者の招待、行きつけの美容室や買い物に出かけるなど地域とのつながりが途切れることがないように支援を行っています。利用者の尊厳を損なうことなく生きがいを持って健やかに生活していただくためにはどのような支援が求められるのか、職員自身も介護に関する知識や技術の習得に向けて各種研修会に積極的に参加し、より良い介護を提供できるようスキルアップを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・古い城下町の中に位置しており、利用者、職員ともに地域の一員として、馴染みの関係が築かれている。
- ・三食とも手作りの食事を提供している。職員と一緒に食事をとりながら、利用者の好みやリクエストを把握し、献立に反映させている。
- ・一日の流れを決めてしまわずに、一人ひとりの思いやその日の気分に寄り添いながら、日々の暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に対する尊敬と感謝の気持ちを忘れることがないように、ミーティングや職員会議等で再確認しながら理念に基づいた支援が出来るように心がけている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくっている。管理者は職員の入職時に具体的な内容を説明している。会議や日々のケアの中で振り返りながら、全職員で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この一年はコロナウイルス感染予防の観点から、外出行事の中止、外部者との接触禁止(面会制限等)により、地域とのつながりを持つ機会が持てていない。	自治会に参加しており、地域の人と日常的に、あいさつや会話を交わしたり、独居の方の見守りをおこなう等、地域の一員としての関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣高齢者への声掛け、認知症高齢者を抱える家族の相談対応など、事業所として積み上げてきた経験や実績を生かして貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況や、行事・事業の実施報告のほか職員が受講した研修内容の報告等を行い、それに対する運営推進委員からの意見、アドバイスを日頃の支援に活かすようにしている。	利用者の様子や事業所の取り組みについて報告している。コロナ禍で会議を開催できない時には、参加者全員に文書で報告書を送付し、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課や地域包括支援センターの担当者には運営推進会議に出席していただき、施設の現状や課題を報告しながら適切な助言をいただいている。また、市役所を訪問した際にも、必要に応じて情報交換などを行っている。	運営推進会議で事業所の取り組みを伝えながら、市担当者よりアドバイスをもらっている。研修案内や介護情報をもらう等、メールを活用し連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を心がけているが、具体的な身体拘束の行為を全職員が正しく理解しているのか疑問があるため、施設内研修として学習機会を設けるようにしている。	身体拘束しないケアの大切さを全職員で学んでいる。転倒予防のためのベッド柵や離床センサー等の具体例を話し合いながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待に限らず、心理的、経済的虐待、介護放棄などがないように全職員心がけている。しかし、虐待に関してもまだまだ勉強不足な点があるため、身体拘束同様に学習機会が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時開催される権利擁護研修への参加や現在成年後見制度を利用している利用者があることから、その後見人に必要に応じてアドバイスをいただくようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書に基づいて利用者や家族が納得できるよう十分に説明を行い、入居に際して不安点や疑問点を抱くことがないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中やご家族の来所時に、運営に関する意見や利用者が生活していく上での要望や改善点などを聞き出すように努め、運営に反映するようにしている。	年1回家族会を開催しているが、今年度は、コロナ禍で中止となった。利用者の様子を電話や手紙で伝え、意見をもらっている。家族の希望で、ガラス越しの面会を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて運営に関する意見や提案を収集し、それを管理者判断で実施(実現)可能と判断すればすぐに実行し、管理者判断の範疇を超える部分については、代表者へ相談し可能な範囲で運営に反映させている。	月1回の職員会議で、意見を聞く場を設けている。また、日々のケアの中での気づきや意見を聞き、会議で話し合い、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績に応じた賞与への反映、研修受講者に対する研修手当の支給等を通じ、職員が向上心を持って働けるよう評価している。また、希望休日が取りやすいように有給取得の促進や指定休日制度を取り入れ余暇活動の充実を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者支援に関する自己評価表を基に職員個々の力量とスキルを管理者と職員が共通認識しながら、足りない部分を補うべく必要なアドバイスを行っている。また、随時開催される研修会への積極的な参加の呼びかけも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模事業所連携事業に加入しており、他事業所との意見交流会や合同研修会を開催し、サービスの質向上に向けた取り組みを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用者が抱える不安や孤独感をできるだけ払拭すべく、利用者への積極的な話しかけや傾聴を行い、施設での生活に早く馴染んでもらえるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の抱える不安や課題、要望などを充分ヒアリングし、安心して施設での生活を送ってもらえるよう支援内容を具体表示しながら不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス以外に必要と思われる支援を、本人・家族の要望、あるいはケアマネジャーの意見を聞きながら検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護をしてあげているという意識ではなく、一緒に生活していく中で、共に喜んだり悩んだりできる関係を築くことを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日頃の生活の様子や健康状態(受診内容等)を報告し、これからの支援方法を家族と話し合いながらケアプランに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人などの利用者への面会や外出支援を奨励しているが、現在はコロナウィルス感染予防の観点から、面会や外出などを自粛しており、十分な支援ができていない。	日々の関わりの中から、馴染みの場所や関係の把握に努めている。馴染みの美容室に行ったり、手紙や電話を使い、またガラス越しでの面会等、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性等を考慮しながら席を配置したり、利用者みんなで楽しめるような催し事を行うなど、一人ひとりが孤立することがないように配慮している。また、利用者同士で手助けしあう姿も見られ、職員はそれを温かく見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去予定者の転居先(転院先)の情報収集から退去後の本人に関する情報交換などを行いながら、すぐに関係が断ち切れることがないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとり一人がどのような暮らし方を望んでいるのか、日々利用者と接する中でその思いを汲み取る努力をしており、可能な限りその思いを実現させるべく支援方法を検討している。	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。日課を固定せず、本人の暮らし方の希望やその日の気分に寄り添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者などから、利用者がどのような生活を送ってきたのか、可能な限りその情報を収集し、少しでもその人らしい生活が施設でも継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者毎の生活の在り方やその変化、身体的変化、心理的变化等の把握に努め、職員会議にて現状に応じた支援の在り方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が抱える課題がどの程度解決されたのか、新たな課題はないかなどモニタリングにてケアマネを含めた全職員で話し合い、本人・家族の意向も取り入れながら介護計画を作成している。	担当職員を中心に全職員で月1回、モニタリングを行っている。家族や必要な関係者の意見を聞きながら、3か月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ケース記録や業務日誌にその日の様子や心身状態を記録し、全職員でその情報を共有しながら介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず、通院支援や買い物支援など、利用者のニーズに応じて柔軟なサービスができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大のため活動自粛しているが、普段は数多くの地域行事への参加や、多世代交流サロンへの通所などを通じて利用者が心身共に豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月2回の往診時に利用者の心身状態の変化を報告し、適切な治療や処方を受けられるようにしている。また、緊急時にも24時間体制で相談や訪問診療を受けられるよう体制を整えている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医とは24時間体制での支援を受けられる。受診時には職員が同行し、家族や医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者の心身状態の観察を充分に行っており、変化があれば協力医院の看護師にいつでも相談でき、適切な指導や受診を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の治療方針から経過、退院に至るまで、病院の相談員と情報交換を密に行いながら、早期退院に向けて安心して治療を受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人や家族から、将来心身状態の重篤化が進んだ場合に、どこでどのような暮らしを望み、治療を受けたいかなど、書面を以って意思確認している。また、実際に重篤化になった場合は、家族、担当医、ケアマネ等を含めてその人に相応しい施設や病院等の転居先などを検討している。	入居時に、事業所のできることや方針を説明しながら、家族と話し合い確認書を交わしている。状態の変化に応じて、繰り返し話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて開催される救急救命講習を受講し、急変時や事故発生時の対応、処置方法などを学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署の指導のもと災害を想定した避難訓練や通報訓練を実施している。また、職員連絡網を作成し、災害時には全職員が速やかに避難活動に参加できるように体制を整えている。	消防署立ち合いのもと、火災を想定した避難訓練を行っている。自然災害での避難方法等について、職員間で話し合いを行っている。食料等の備蓄品を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声をかける際は、指導的な言葉や命令的な口調にならないよう気を付け、穏やかに柔らかい口調で話しかけるようにしている。また、利用者の尊厳を損なうことがないよう、プライバシーの配慮も怠らないようにしている。	利用者と職員が信頼関係をつくり、穏やかな暮らしを支える等を理念に掲げており、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めるよう会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表出するのが困難な場合でも、職員側から選択肢を提示したり、思いを推し量る努力をして、少しでも思いの実現ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活リズムやペースを優先し、施設側の都合を押し付けることなく、一人ひとりのやりたいことや暮らし方を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの服や着慣れた服をいつでも自由に着れるよう配慮し、洗顔や整髪なども利用者の力に応じて適切な支援を行っている。また、行きつけの美容院への同行支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえやテーブル拭きなど、利用者のできる範囲で手伝ってもらい、食事も全て職員の手作り料理を利用者個々に合わせた食べやすい形態で提供している。また、行事や記念日毎に巻きずしやちらし寿司を召し上がっていただくなど、食事が楽しみなものになるように配慮している。	三食とも手作りの食事を提供している。利用者と職員が会話を楽しみながら一緒に食事を過している。会話の中から、一人ひとりの食の好みや希望等を把握し支援につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり一人の好き嫌いを把握し、栄養バランスが保てるようメニューの工夫をしている。水分摂取量の少ない方にはお茶、ジュース、コーヒー等の中から飲みやすいものを召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに職員が立ち会い利用者の自立度に応じて、個々に合わせた適切な支援を行っている。また、職員も口腔ケアの重要性を認識するために、口腔ケア関係の研修会に参加し、知識の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄習慣を損なうことがないように、日中はトイレへの誘導や声掛けを行っている。夜間は個々の排泄リズム、身体状況等に応じてポータブルトイレを使用するなど、柔軟に対応している。	トイレでの排泄を基本に個々の能力に沿った支援をしている。一人ひとりの習慣を把握し、表情や様子を見ながら羞恥心やプライバシーに配慮した声かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保やリハビリ体操を取り入れることによって便秘の解消に努めている。また、毎朝ヨーグルトを召し上がっていただくなど飲食面でも工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴があるが、入浴を楽しみにしている利用者もいれば、入浴を面倒くさがって拒否する利用者もいる。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、声掛けの仕方をその都度変えて誘導するようにしている。	ゆず湯や入浴中にゆっくり会話をする等、入浴を楽しむことができるように支援している。入浴を嫌がる人にも、タイミングや声かけを工夫しながら、本人本位の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個人個人の自由に任せており、居室は気候や気温に合わせて快適に休めるよう、本人と相談しながら布団調整や冷暖房の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書をファイルにまとめており、職員はいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また、新しい薬が処方された場合は、その効果や副作用についてどのような変化があるのか職員ミーティング等によって情報共有し、担当医へ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、塗り絵、カルタ、百人一首など、利用者の好きなことを楽しんでもらえるようレクリエーションに取り入れている。また、調理関係のお手伝いや洗濯物たたみなど、利用者にも役割を担ってもらうように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの関係で現在外出機会は限られているが、本人の希望に沿って行きたい場所への同行支援を行っている。	気候の良い季節には、中庭でお茶を飲む等、外気浴を楽しんでいる。感染症対策に配慮しながら、紅葉見物等のドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理をしている利用者はいないが、今後希望する利用者がいれば、買い物支援や金銭の出納管理等の支援を行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人などに手紙や年賀状を書いたり、場合によっては電話をかけたりなど、希望する利用者には通信手段が途切れないよういつでも支援ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者に混乱を与えることがないようにシンプルな作りになっており、ホール内に季節の花を飾ったり、季節ごと、行事ごとの装飾を施すなど工夫をしている。	昨年、厨房を別棟に移し、食堂を広げた。中庭にテラスを造り、利用者が思い思いの場所でくつろげるよう工夫している。室温や音等、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の建物内だけでは共用空間が十分とは言えないため、天気の良い日にはいつでも外の空気に触れられるよう、中庭で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、利用者が使い慣れた物や、馴染みのある物など自由に持ち込めることを説明し、利用者の好みに応じてテレビを設置したり、写真を飾ったり自分だけの空間として自由に利用できるようにしている。	入居時に家族と相談しながら、仏壇やテレビ、家族写真、使い慣れた布団等、本人が居心地よく過ごせるような居室づくりの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の構造上利用者に多少窮屈な思いをさせているが、居室からホール、トイレなどの共用部分にかけて、利用者が場所の認識や移動に支障がないようにしている。		